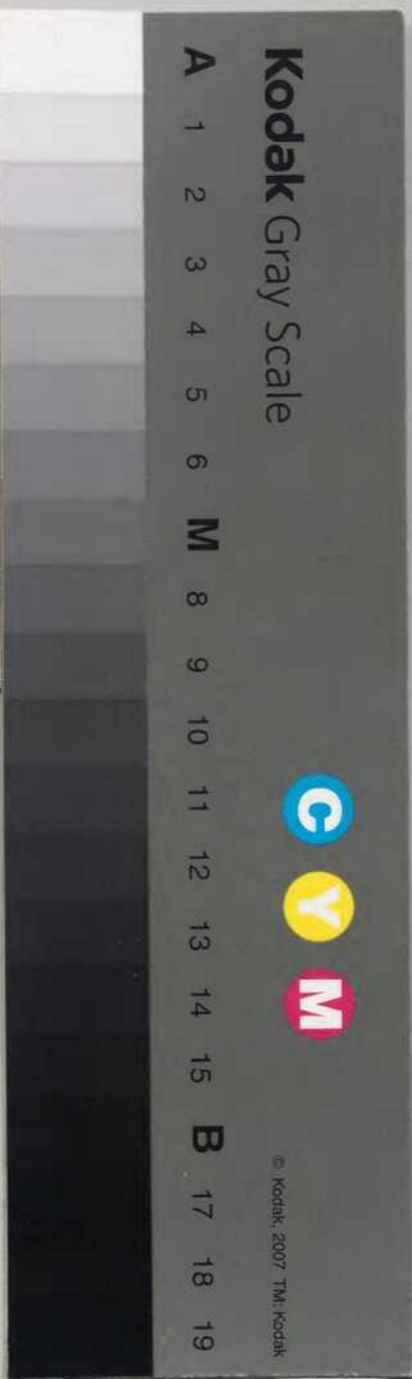


寛永諸家譜

藤原氏
支流
奈々五冊之内十九

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186(132)
函號	76 1





宮崎

御子流

永田

守屋

宮原

賀茂宮

雨久

宮田

仙波

宮重

寛永徳家系圖傳

藤原氏

癸十九

支流

宮崎

先祖日向の宮崎初任
了らばて称號

● 恭備

小三郎

後執後と号

生國甲斐

浅草文庫

泰系

武田信虎了了所子
永禄十一年四月八日了了死を八十
六歳法名道西

小三郎 後筑後と号す 生國信茂
信玄同族也了子
天正十六年没すといふ
東照大権現了了所湯も元供奉す

泰重

家こしんを小田原陣圍東山入す
奥洲陣等かり
享長十一年正月九日了了死を八十
八歳法名玄要

与六郎 後半無事と号す生未月か
天正十六年十一月没すといふ
わすれす

大権現より瑞福一小田原陣と申し
同原山入兵奥州陣等一休奉と
武蔵の府中より一と申し候事
後より入山番と申し候
享長四年八月九日死と六十一歳
法名道澄

安重

太郎兵衛尉

長岡

天正十六年豫府より一と申し候事
大権現より瑞福と

同原山入兵ありと申し候事
より武州府中より一と申し候事
地より後より大田中候と申し候事

分長五年法州同原山陣より候事
より北より田丸中務月本忠村
音成より瑞福より一と申し候事
享命より後より長岡高直

と女重と忍村一いふり即
城とけとるは洛陽とる
と國と達もさけら京極修理
人丈國とつるりし
ありて明日交系と信州伊奈
部とるる部事とさし
りたりか領と信州信内
とひくはゆりしれら日那の
小代友とる

大坂御陣のとき信州伊奈の
軍場とけりし牧方とる
くしとるしとる

元和七年二月十七日死に歳字三

重徳

太郎江守尉 十四日

元和九年

右衛門尉一お福

將軍家

系次

孫物 後友右衛門と号す 七國司

天正十六年孫府と号す 七國司

大隆現 孫湯と号す 七國司

小田原陣 園東 涉入 四具

列陣等

寺長五子 上校 系孫 達之のとき

台徳院殿 供養 宇都宮文

信州吉田の家

其のち 号命と号す 後

信州下伊奈の郡事と号す

其代友と号す 其れより 郡

右 下 其れより 来地と号す 月

十九年 大坂の陣 此より 下伊奈

の園と号す 其れより 望年 大坂

陣 信州伊奈 其軍 塚と号す

其方 其れより 其れより 其れより

寛永十四年六月一日に死に歳七十八
法名淨女

時重

令左衛門 伯耆守 十回武統
奉長十三子 後裔として
入院して 賜号ありとして
号命として 伯耆守
名 伯耆守 一子 十回武統

又 坂内 慶の 四傳 として

寛永十一年六月

將軍家 御上洛の とき 従五位下
に 叙し 伯耆守 として

重政

隼人

十回 伯耆守

宗重

九郎 次郎

十回 信長

元和五年

台德院教了一片一毎一く一戸一門一死

寛永二年正月二十九日一死一

歳二十三 法名見金條見

重久トクヒサ

九郎次郎

寛永十一年二月十日

右軍家見右見偶見

道次ミチツグ

三左衛門

牛國信ウシクニノブ

台德院教

右軍家見勤見仕見了見了見了見了見

照泰テラノカミ

彦ヒコ次郎 生國ウケクニ日ヒ本ホ

天正十九年正月

又マタ権ケン現ゲン了リヤウ了リヤウ了リヤウ

文禄元年秋、朝鮮のとき、肥前
名護屋に伏し、
後上列候内、
二十五六歳、
家督の子、泰清、
ゆり、

重次

庄次郎 後半兵衛と号し、
信濃 長四郎十一月

入道現、
信濃のり

右近衛敏、
同子、
つ、
下、
の

大坂、
軍、
牧、

号長十年奉次六歳一七

名徳院殿一お湯一兄奉清の巻

孫と娘と

同十九年大御殿と信長丸大坂に

陣一信長一のり

お軍家信長とてまのり信長物

とお役と信長丸印米とく之は

寛永十年七月廿一日一死と奉

三十四

改泰

半十郎 廿四歳

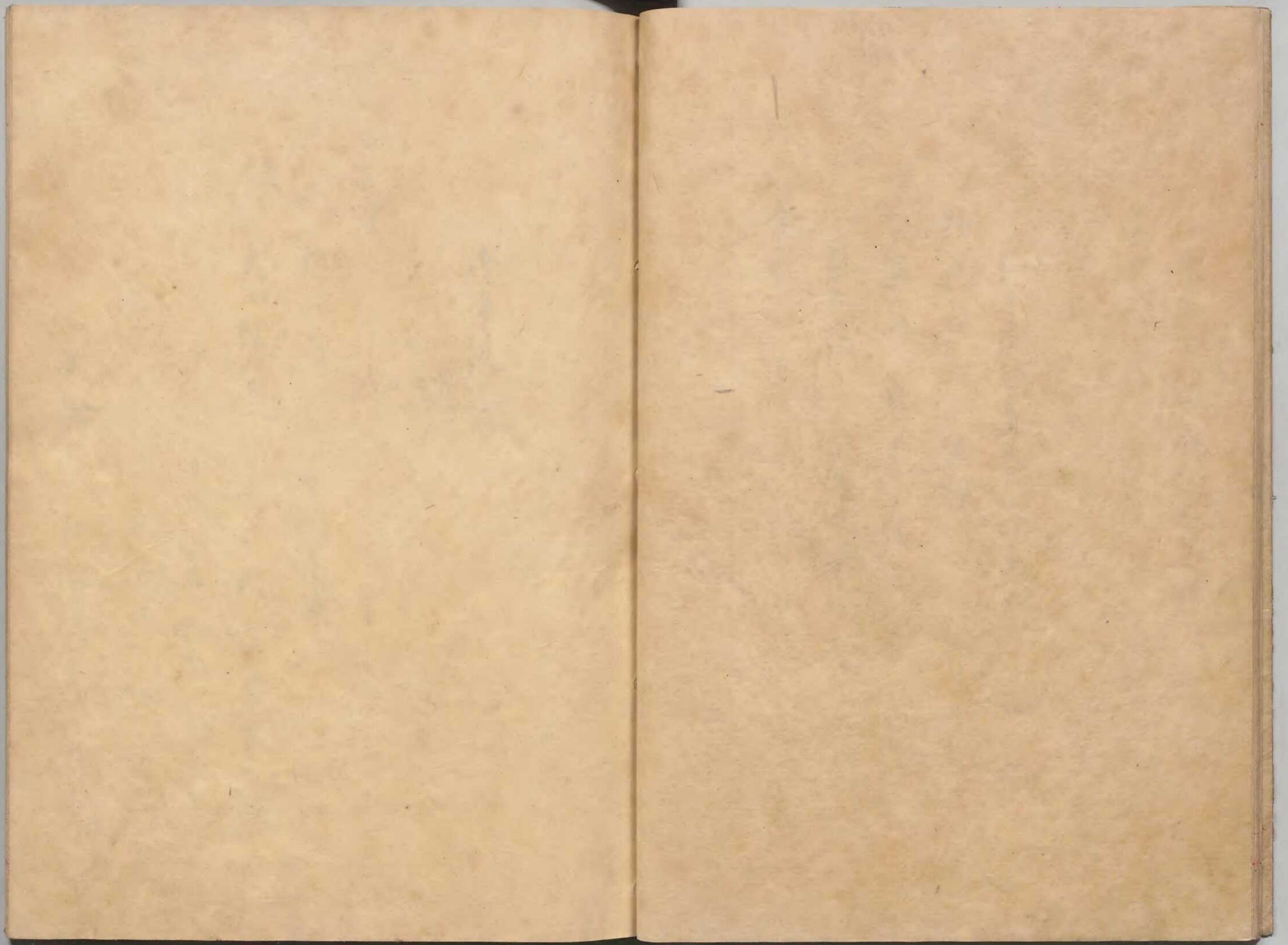
寛永十年十二月

將軍家一お湯と

同十二年十二月食邑と領一と

大番とつと心

家紋 烏居のふと鳩



正重

湯平流

新七郎

十四甲樓

武田信虎

くまのしんご甲州小石和ら小山

北城之とらるる玉納口と押信虎

しらの威状ありき後信玄より

天文十五年信州戸石一とひ
我死と 法名了心

心吉

越前 上國同前

信吉 一子

天文十五年乙正重と同戸石一と

信吉後明氏真と合我のとき

信吉後明氏真と合我のとき

の卒五十人とありしは頼

一子

て正之の長孫合我のとき

一子

同十年信州信濃の板

東照大権現甲州入雲のとき

て食邑とありしは

名酒院殿一子

如丸殿より

元和二年三月八日、死に八十二歳
法名紹心

直重

五郎兵衛尉 生國甲斐

大指現甲別所入、武具の風習
と、子の輝起、一軍場二百人
を率、甲別棚小屋、競、さ、う、家
か、さ、風、習、と、討、揚、州、を、首、と、提

大指現、一、ゆ、え、き、く、ま、つ、こ、指、

し、つ、て、七、切、と、賞、一、ゆ、ま、下、法、

願、其、ち、し、い、食、色、を、き、ま、し、ね

大、指、書、と、所、と、い、い、小、版、吾、今、

と、い、て、い、れ、あ、り

寺、長、四、月、十、日、二十、日、死、に、百、十、二、歳

法名宗清

正久

長、右、清、尉 生、國、甲、斐

廣長は元同原清陣のときより
まじりて

大権現より所へ命をさくまのり
名徳院殿より子より大御巻
所と心より

將軍家より所へ命をさくまのり
御幕をとりたる家

定重

平兵衛尉 生國月あり

正久、喜子とち子實と板下丸八
が子なり

天正十年

大権現甲州市入谷のとき元八郎三坂
口よりとひて氏政り後士と討揚る
りしよりめされて食巻とち命り

家紋 竹倉

元和七年七月定重

名徳院殿了明禱

將軍家よりつとてたつて大由香
の姫路したる

昌廣

元平次 七回甲斐

重守の宮子とらぬ実古加友平次
昌氏の子なり昌廣幼少の時又
昌氏と藤ととてて我死と

とてりたつて慈母昌廣とて
て重守とて嫁とらぬやとて
く子とて

昌氏とて甲斐信玄掛頼とて

昌氏とて又加友孫河守昌於七回甲斐

信虎ありとて信玄より所とて

或老を所とてあり郡内上野原城

一居り 家紋下敷

慶長十三の九月昌廣

名徳院殿了相湯と

同年十一月大御香と所と心

同十六年七月朔の二死と三十七歳

法名桂山

家重

五郎兵衛尉 廿四歳薨

元和九年十月了死と二十

九歳 法名淨貴

忠重

五郎兵衛尉

外舅家守養て子わらふ実と

向井控兵衛政家の子なり

寛永五年

將軍家了相湯と

同十二年正月了つとんまの

政重

向井信重守 七回伊勢

信玄了了のり孫頼づき
了了のり孫列持船の城了了を
了正七年九月持船の城了了を
了死と六十一歳

政孫

向井孫兵衛尉 七回同前

又政重と孫了了のり持船了了を
了死と四十二歳

政鑑

向井兵衛助 七回孫河

大持現了了のり了了を
寛永二年三月卒九歳に了了

政家

向井孫兵衛尉 七回同前

名徳院殿了了りょうりょう

元和五年十月げんわごねんじゅうがつ 死し 四十二歳

法名ほふな 淨道じやうだう

家紋けあもん 友丸ともまる

昌重まさしげ

右衛門尉うゑもんゐし 昌重まさしげ

長十六年十一月

名徳院殿了了りょうりょう

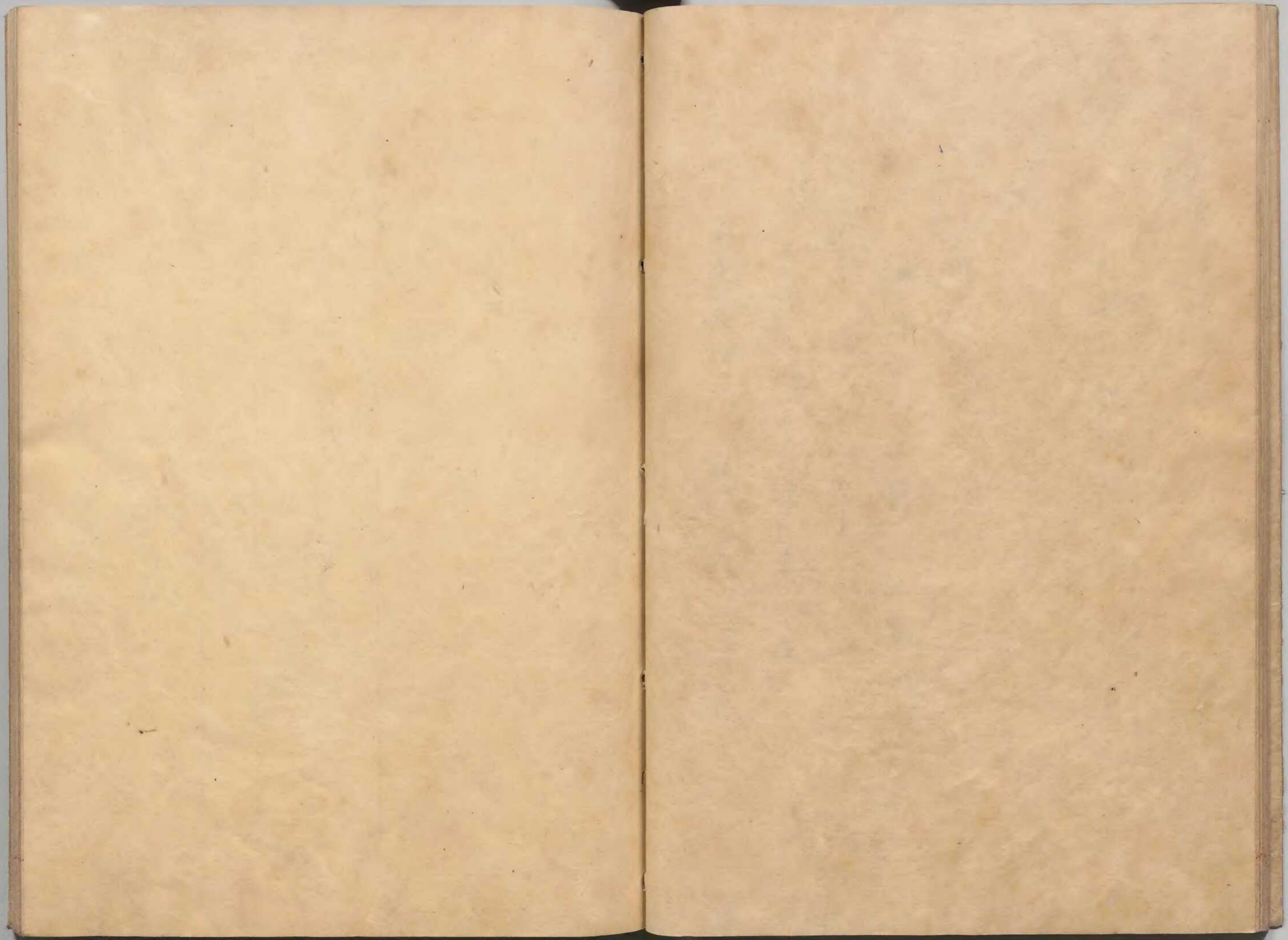
名和七年十一月なわしちねんじゅういちがつ 大由春おほゆはる

將軍家しやうぐんけ

寛永八年六月かんゑいはちねんじゅうろくにんがつ 中腰なかつしほ 持役もちやく

を以てし

家紋けあもん 鳩とむ 雛ひな 草くさ



永田

正久

次郎右衛門尉

生國尾純

久塚

孫右衛門尉

上國同好

藏回信雄

一子

丁酉十八年十二月は御一新宗祐
号と同年

東照大権現了り湯一をくすり

台命をけし後り

台徳院殿了り了り了り

号長十七年十月廿九、八十六歳

ありて死す

政者

四郎左衛門 生國同前

政次

庄九郎 生國同前

文禄元年失りおされ

大権現了り了り了り

台徳院殿了り了り了り

号長十四年又十歳ありて死す

市路

傳左衛門尉

生國武藏

先づれく

右酒院殿日持備一又政次が書次

とてまよ

元和八年大沙番と所と心

同年後河御城番とつと心

寛永三年後河大納言と心

同十一日ウキれて

將軍家つりて番とつと心

と所と心

重好

於右邊尉

生國日向

寛永十八日ウキれて

將軍家つりて番とつと心

番と所と心

重真

攝津守 生國尾張

信雄

天正十九年

大持現

文祿四年

台徳院殿

將軍家

重直

寛永十三年

同年八月

病死七十二歳 法名 祿安

孫左衛門尉 上國尾張

信雄

天正十九年

大持現及

台徳院殿

慶長九年四月十三歳死

重清

与六郎 生小同

大持現 同东入回 与老列 演查

与六郎 生小同

与六郎 生小同

久重

与六郎 生小同

与六郎 生小同

与六郎 生小同

重勝

与六郎 生小同

与六郎 生小同

与六郎 生小同

与六郎 生小同

与六郎 生小同

重昌

徳右衛門尉

牛久保

重昌が喜子と申す實は徳右衛門

子わわ

寛永十一年

將軍家へ行へる命をくまへり

重春

徳右衛門尉

牛久保

名徳院殿へ行へる命をくまへり

直時

四郎三郎

牛久保

分長九年

名徳院殿へ行へる命をくまへり

寛永二年

將軍家へ行へる命をくまへり

正ただ

三心印

直ただ後ご

若十郎

生國同前

台徳院殿

將軍家よりつとてくまのり千二
百石此領地とすま

直ただ後ご

孫左衛門尉

生國同前

享長十八年

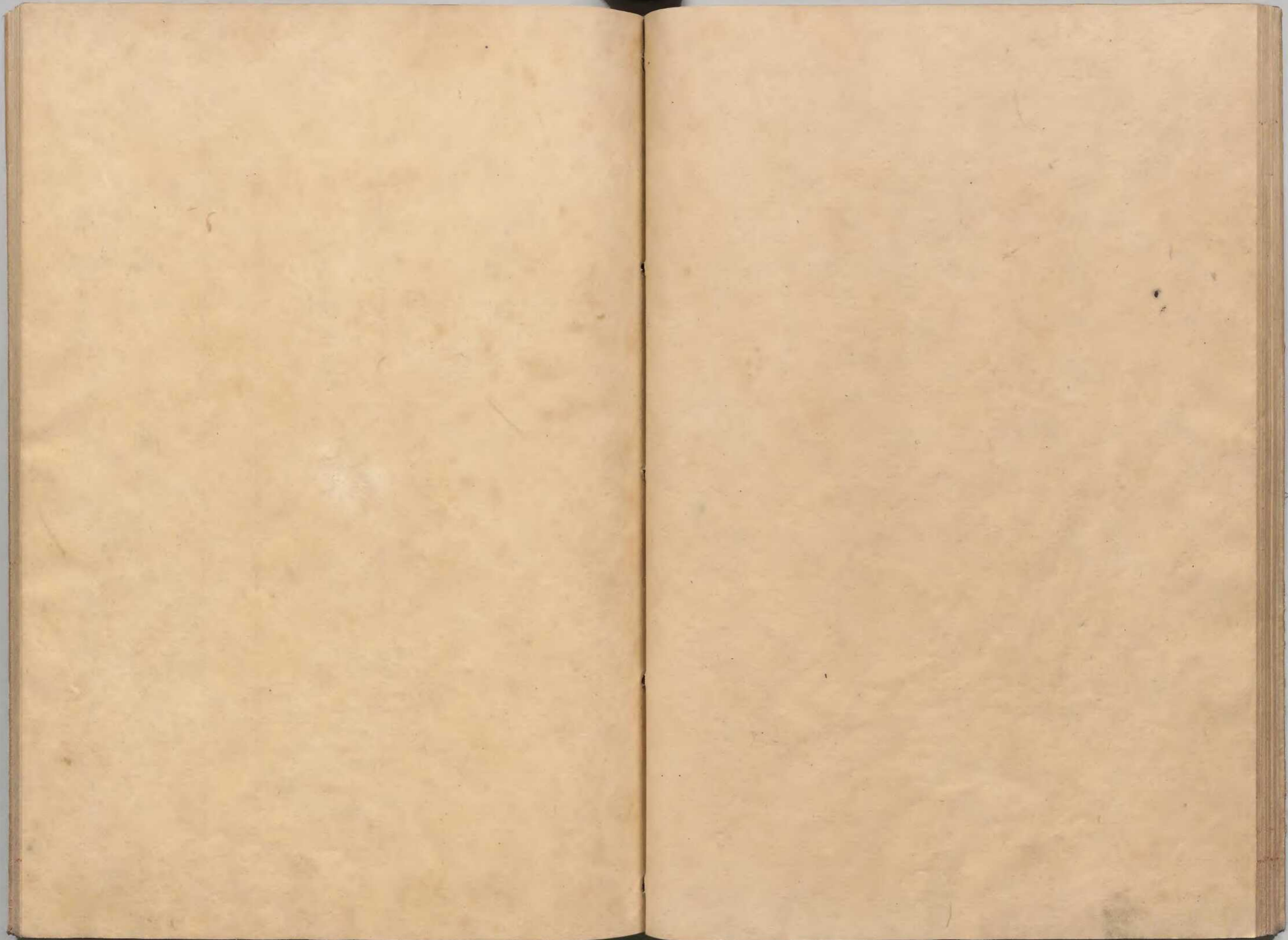
台徳院殿より存揚より多くたのり

元和三年

將軍家より片人多くたのり

家紋

丸内釘抜まのうちのくぎがけ



集

源八

王國月外

東照大権現ノ所ノ御宇ノ事

正吉

王國之河

永田

四十又歳に病死 是名暑患に也

正次

五丈 午酉月前

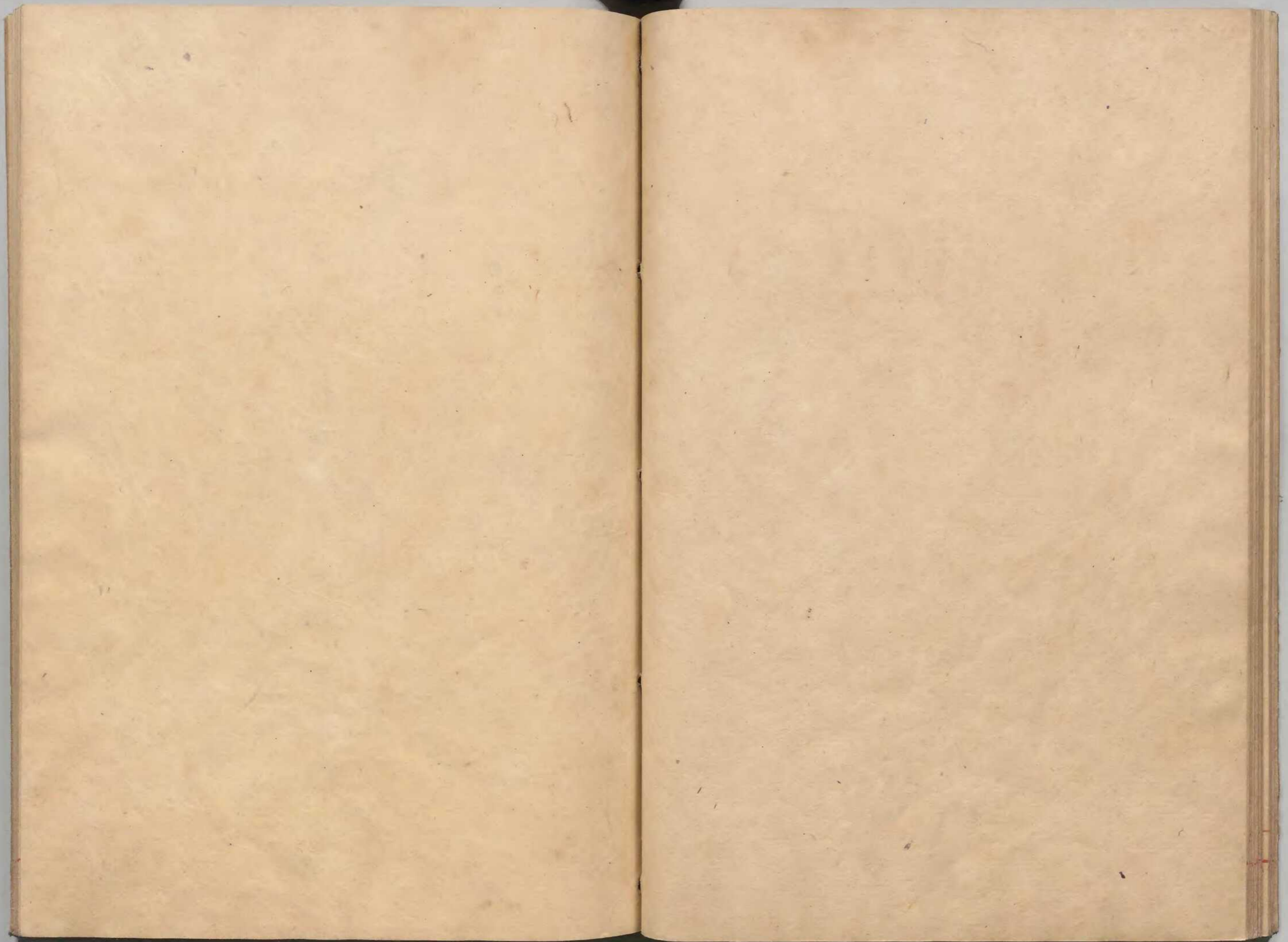
大権現

名徳院殿

將軍家より人々多くありて食禄

と云ふ事

家の紋 丸の内は行援



守屋

● 行守

右京

後若狭守と号す

生國に換

小田原小條早雲了

了

九十六歳少して死す

法名常盤

行次

右京 生國日前

行幸の貴子とある 實ハ正孫大馬允

が子びら

小條家 つよ 又十六歳なり

死と 法名妙取

行重

右京 後若後と称と 生國日前

小條氏 經より氏重より

つよ

慶長九年七十の歳なりて死と

法名定永

行廣

たたま 生國日前

号長十又年

台徳院殿了了の旨をくまのり代友
職と所と心

同十九日大坂出陣の儀等とつと心
寛永四年五月十七歳より一死と
代名宗春

河守

六左衛門尉 七個月分

元和六年

將軍家了了の旨をくまのり代友

小姓組の番と所と心

寛永元年より大御番とつと心

行台

左大史 七個月分

台徳院殿

將軍家了了の旨をくまのり代友

行廣 ゆきひろ

虎之助 とらのすけ

土田武隆 ついでたけりゅう

寛永十一年

將軍家一掃一掃一掃一掃

月十八日大出書と相見

家紋

雜 あそび

守屋もりや

昌成まさなり

次右衛門尉つぎみぎ 生國なまくに甲斐かゐ 法名宗現ほふなむねのけ
武田たけだ 信玄のぶひら 内膳うちぜん 了りょう

昌房まさむね

八兵衛尉やっぺい

金山やまがね

法名尊房ほふなむねのむね

佐々木掛札了

天正十年

東照大指現甲州沙入

いづれ得る

台徳院殿了

成信

八云斎尉 十四日

台徳院殿

將軍家了

家紋

釘板



石利いしり

新右衛門尉

十四日

名徳院殿

將軍家しんぐんけに侍まじりて居ゐりしに

寛永十三年かんえいじゅうさんに死しす

法名ほふな良河りやが

石次いしじ

新右衛門尉

寛永十三年

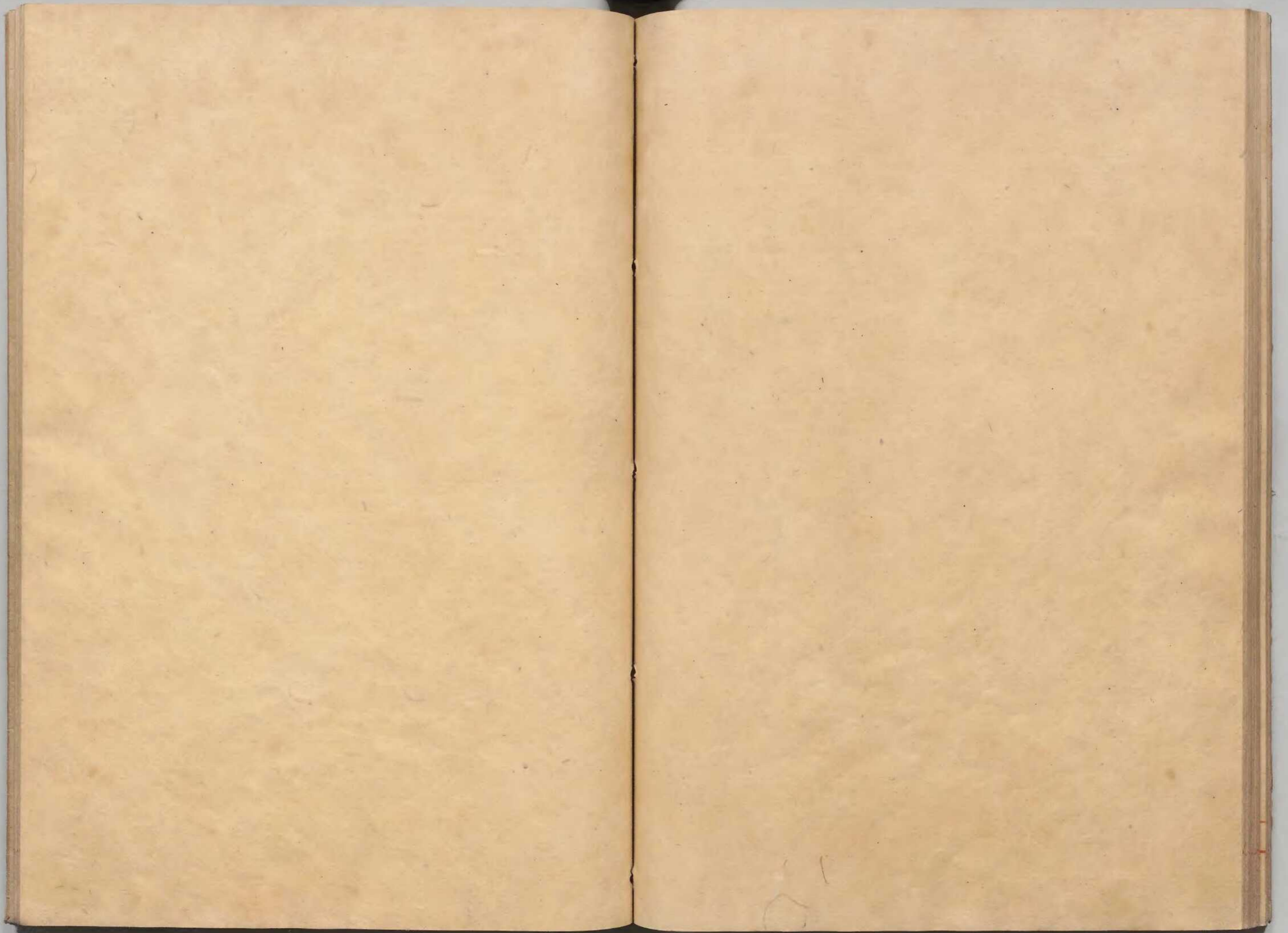
將軍家しんぐんけに侍まじりて居ゐりしに

石利いしりが遺跡ゆいせきと領りやうして御殿ごでんの巻まき

と侍まじりし

家紋

友ともの丸まる



●
亞^ア孫^ソ

加^カ茂^モ宮^{ミヤ}

式^{シキ}部^ブ少^{シウ}輔^フ

相^{サウ}列^{リョウ}小^{シウ}回^{クワイ}庭^{テイ}加^カ茂^モ宮^{ミヤ}の^ノ編^{ヘン}

小^{シウ}条^{テウ}氏^シ政^{テイ}子^シ

書信

源右衛門

十四日前

氏正一了ふか後文の郷百八十母

此地を領し

正又在十月廿一歳一死

氏名宗林

正重

次出権尉

十四日前

正十八年七月十日小條源真守氏照

自害一後翌日

東照大権現と母湯と

文禄元年新野海一供養一肥前

名護屋一

元和七年一釣命とけり

和年石見守一後河大納を志す

了所

寛永十一年

將軍家了つる會てたつぬ

同十八年六十八歳了つて死に後宗持

直政

合后侍尉 牛國武院

寛永十三年十二月

將軍家了つる會てたつぬ 大由番

所と心

直定

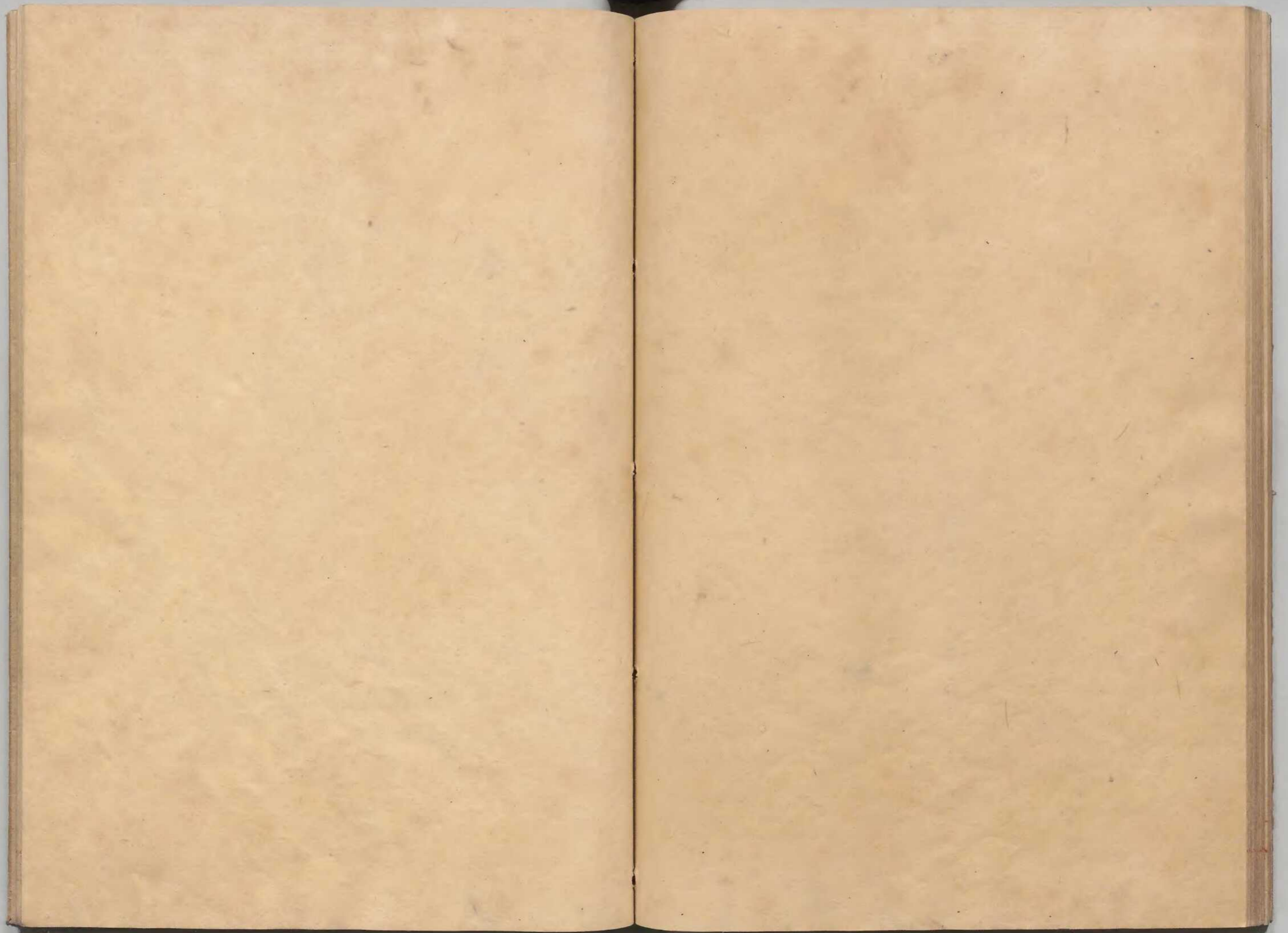
太郎八 牛國後河

寛永十八年三月

將軍家了つる會てたつぬ 大由番

家紋

丸の内九字



● 忠正

西宮 あきみや

尾張 おわり 牛久保 うしひら

武田 たけだ 信虎 のぶとら 子

忠次

淡路 あわじ 牛久保 うしひら 法名 ほふな 存鉄 ぞんてつ

信玄掛彩了

天正十年

東照大権現甲州入國のとき

所々々々々々

忠長

次郎右衛門 七國貝が 法名宗白

信玄の掛彩了

天正十年父忠次と同時

大権現 信玄の掛彩了

忠俊

次右衛門 七國貝が

大権現

信玄院殿の掛彩了

忠能

勘兵衛尉 七國軍装

名德院殿

將軍家了了るるまのり

忠信

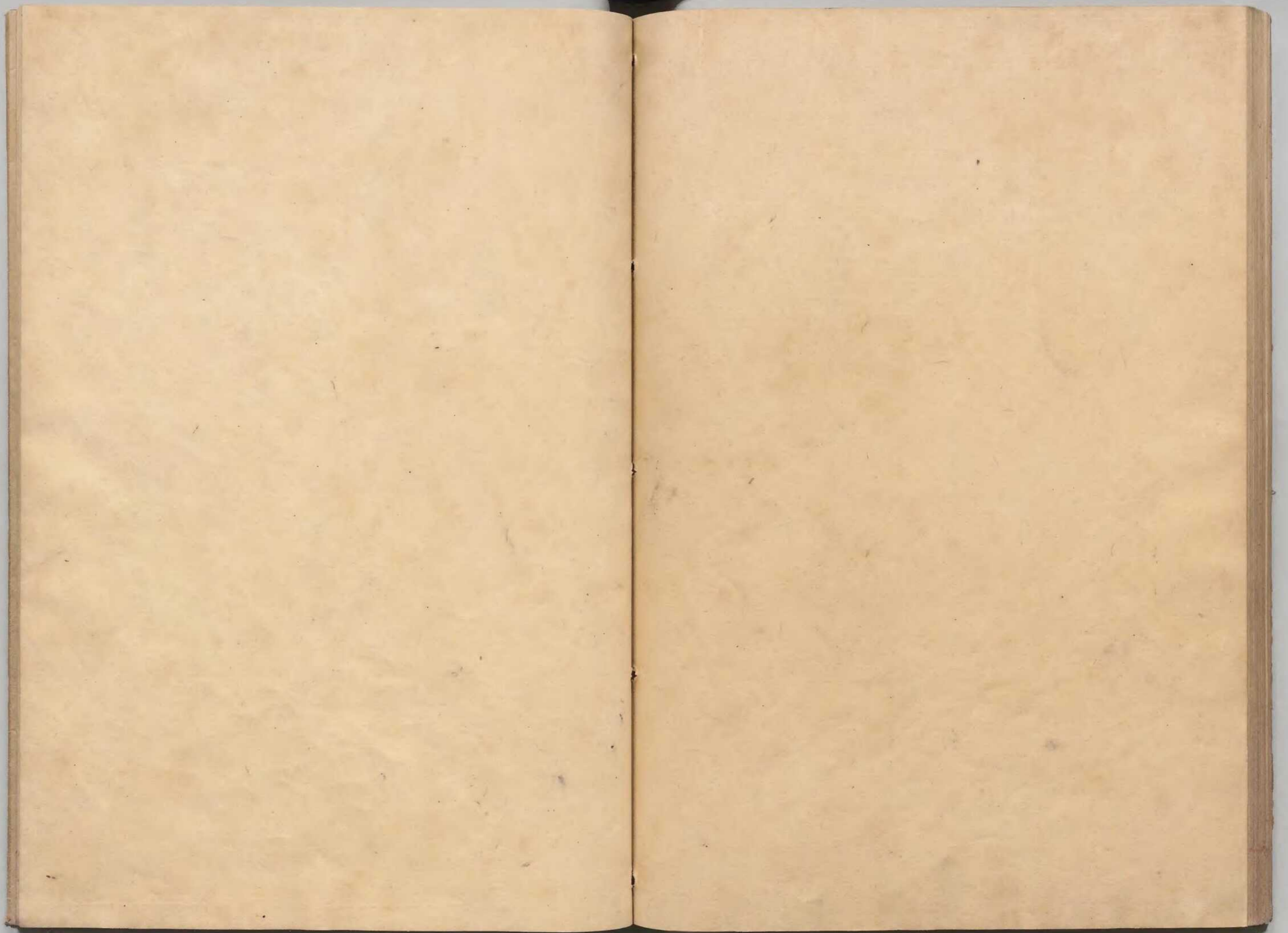
長次郎 牛國武苑

名德院殿の約命よしりて後河大納言

長長郷 了了そのら

將軍家了了るるまのり

家紋 日の丸



● 吉次

官田

曾大遠尉

牛園英儀

小條氏重

正十の年小回原落居の後

東照大権現

台徳院殿

慶長九年（一六〇四年）五月二十五日薨御

吉久（一六〇四年）

次左衛門 十回相模

享長九年

名徳院殿 孫治一のり

將軍家より召し置けり

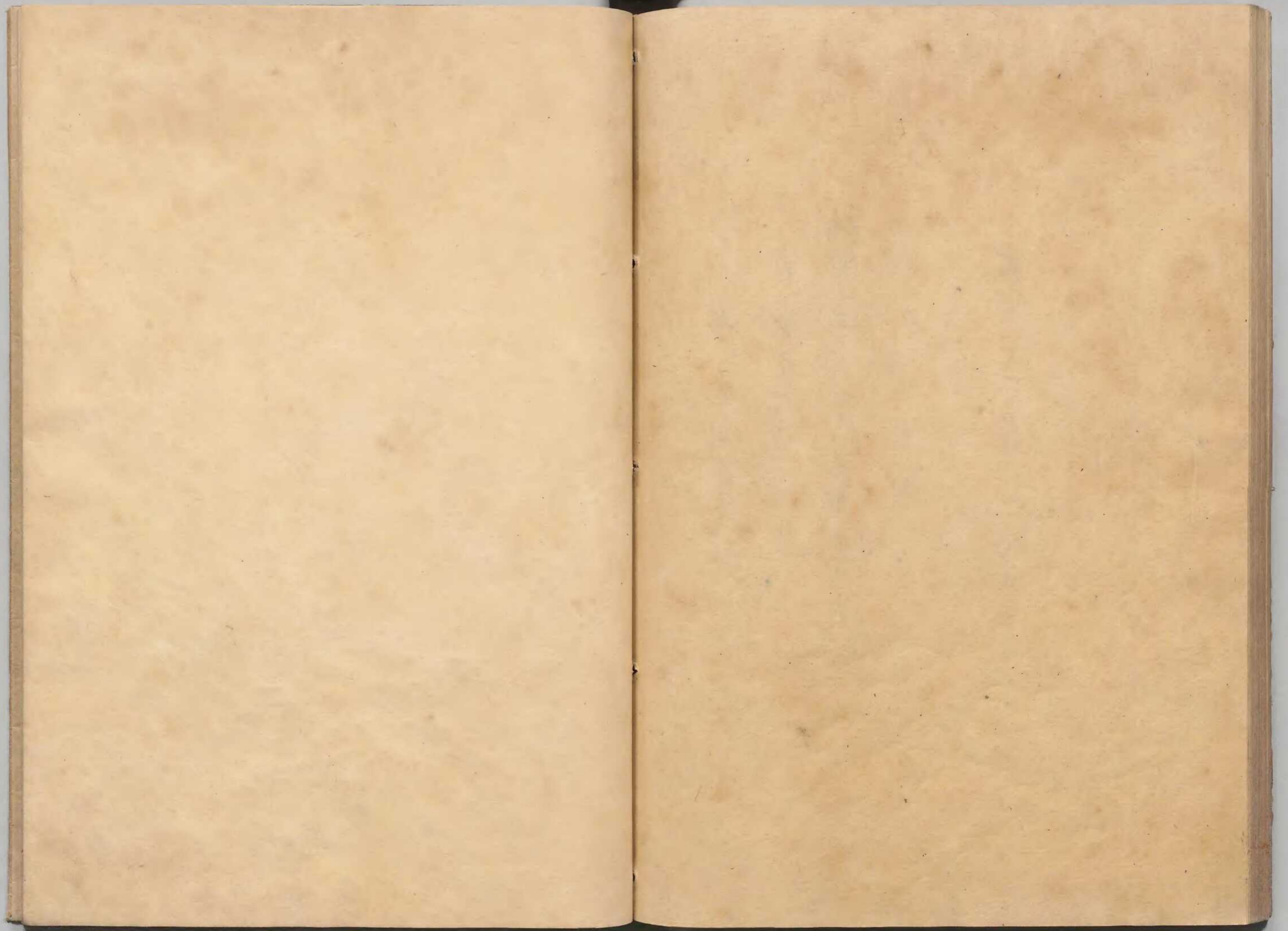
吉播（一六〇四年）

市兵衛 十回武蔵（一六〇四年）

寛永十一年

將軍家より召し置けり

家紋 下敷の丸巾三文字（一六〇四年）



● 集

仙波

仙波と稱す
仙波氏なる次孫いふる

布施ふせ之の名
廿四相列小回せうごうしやうれつせうかい原

累代らいだい小條せうじょう家け一いつ所ところを救度きうど軍切ぐんせきあり

九十せうじゅう四し歳さい一いつて死しす
法名ほふな法泉ほふせん

次種

兵部少輔 牛廻日新

小条氏政 子

和吉布挽氏 子 仙波

肥前 子 仙波

号

文禄四年八月十六歳死

法名玉新

吾種

七郎右衛尉 牛廻日新

小條氏政 子

天正十八年小田原没落此

東照大権現 子 牛廻日新

明陣の供を所

文禄元年肥前名護屋陣

供

孝長又年圓原山陣の時

台徳院殿より供養を

寛永三年五月六十二歳少く死す

法名宗正

正種

太郎長清尉 七回武統

孝長十二年

台徳院殿よりつりへ奉りたまふ

元和八年後河内山城番と成り

寛永元年志長で後別と稱す

まよと承附して志長御す

つよ

月八日武州よりおとせ

月十一日

將軍家より召されつゝ人々を

後種

孫七郎

家紋

りげき

信右

孫右衛門尉

牛國河

信成

孫六郎 牛國河
信康君了子

宮重

廣忠卿了了

信房

傳六郎 午四日命

東照大権現了つる命をくまのを勅
牧野御陣のとき大次郎其高直也
かみ了了房一仕寄陽了了
とにす城と此れの小さく誤絶
了了を病を了了物事天正

十二子長久平合戦の供奉
首一級と得るを了了

名徳院殿了了の命を了了
元和四年三月廿七日卒歳了了死

忠次

作兵衛尉 午四日命

天正十八年

大権現了了の命を了了

同年小田原湯陣に供与一
其の奥列に陣に供与一

中心に

台徳院殿

將軍家より所々へ

信次

十右衛門尉

武苑に

寛永三年

將軍家と

正次

久右衛門尉

十四日前

寛永三年

將軍家より

家紋

鶴丸

